

大麦栽培管理情報(第4号)

詳細は平成31年JA冬期懇談会資料
56～57ページをご参照ください。

平成31年3月25日
アルプス農協管内農業技術者協議会

31年産大麦の生育は、茎数が平年より少なく、生育の進みが平年より早くなっています。積雪が少なかったこともあり、出穂期は平年(4/22)より早くなると見込まれ、平坦地で4月13日頃と予想されています。

1. 排水対策の徹底 ～排水溝、排水口の手直しを！

4月に入ると大麦は急激に生育し、根の伸長も盛んになります。出穂後の登熟条件を良好に保つため、圃場ごとに排水溝を点検し、湿害を回避しましょう。

- 雨水が停滞しないよう、排水溝の崩れを手直しするとともに排水口へ確実に連結しましょう。
- 畝や枕地などに停滞する水を排除するため、補助排水溝を設置しましょう。



2. 止葉展開期追肥 ～適切な追肥で粒の肥大促進、整粒歩合の向上を～

止葉展開期は、平坦地で4月2日頃(10月第3半旬播種の場合)と予測されます。

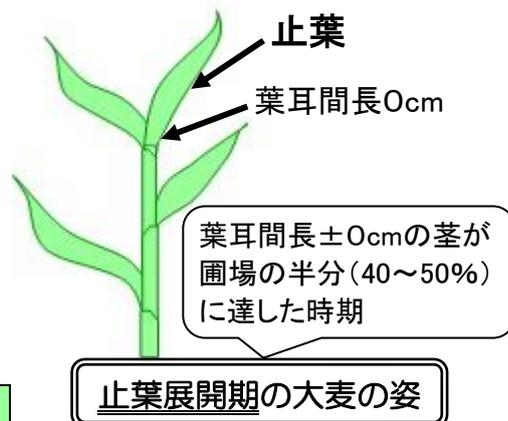
(1)LP大麦48号(基肥一発肥料)を施用した圃場の場合
→ 追肥の必要はありません。

(2)分施肥体系の場合

播種時期や地域により大麦の生育に差があるため圃場ごとに止葉の展開状況を確認し、生育量や葉色に応じて追肥を行いましょ。

【追肥量の目安】

葉色(葉色板)	追肥時の㎡当たり茎数	10a当たり施用量
5 未満	500本未満	硫安 10 kg
	500本以上	硫安 7 kg
5 以上	500本未満	硫安 5 kg
	500本以上	追肥しない



※施用時期が遅れたり、施用量が多いと倒伏や硝子粒の発生増加による品質低下につながります。左の目安を参考に、適期に施用しましょう。

3. 赤かび病防除 ～適期防除に備え、農薬等の準備を！～

赤かび病の1回目の防除適期は穂揃期です。防除日の目安については、今後の大麦の生育状況を確認して、次号(4月上旬)でお知らせします。確実に適期防除ができるように農薬や散布機材を準備しておきましょう。

	1回目:穂揃期(開花始め)	2回目:1回目の7日後
粉剤防除体系	トップジンM粉剤 DL 4kg/10a	ワークアップ粉剤 DL 3kg/10a
液剤防除体系	トップジンM水和剤 1,000倍・150ℓ/10a	ワークアップフロアブル 2,000倍・150ℓ/10a